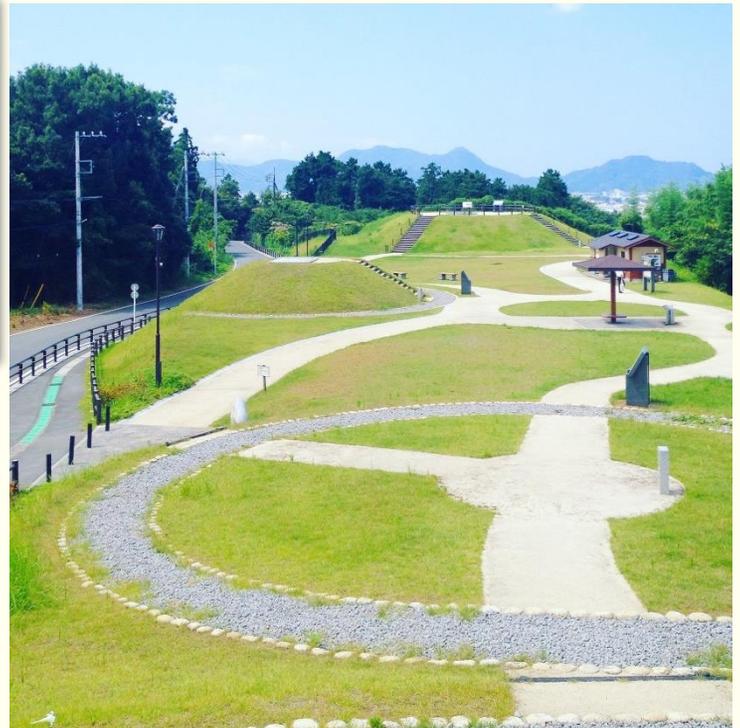




親子でめぐる
みしまの
文化財



あるいて めぐる



三島八小路 (みしまやこうじ)

今から約 150 年～400 年前の江戸時代に、東海道、下田街道などの大きな道に対して、親しみをこめて呼ばれていた 8 本の細い道のこと。この名前をすらすら言えると三島に住んでいる証明となり、箱根の関所を通ることができたといわれています。

MAP 1



阿闍梨小路 (あじやりこうじ)

ひろ小路町のキミサワ前から伊豆国分寺につながる南北の道。あじやりとは、仏教のことばで位の高いお坊さんのこと。この場所にあじやりのお屋敷があったため、この名前が付いたともいわれています。

MAP 2



下の小路 (したのこうじ)

桜川から東にゆるやかにカーブする道。上の小路の 1 本南側にあり、住宅が建ち並んでいます。現在は西から東への一方通行となっています。

MAP 3



金谷小路 (かなやこうじ)

三嶋大社東側の T 字路の信号を北に向かう道と、三嶋大社の総門から東へ抜ける道の 2 つの説があります。この辺りに職人が多く住み、金谷町と呼ばれていたため、この名前が付いたといわれています。

MAP 4



細小路 (ほそこうじ)

三嶋磨師の館から西に 50m ほどのところにある北に上る道。この辺りは昔は「社家村」といわれ、三嶋大社の関係の仕事をする人々が住んでいました。

三島七石 (みしまななせき)

八小路とともに三島市内に残る三島七石。これらには、昔から言い伝えられた石にまつわるエピソードがあり、長く市民に親しまれてきました。

鬼石 (おにいし)

※広域マップB

市街地から離れた山田川沿いにあるとても大きな石です。鬼が運んできて、途中あまりの重さにここで降ろした、鬼が石に乗った、などの言い伝えがあります。



MAP 10

祟り石 (たたりいし)

三嶋大社の鳥居をくぐり右手にあります。昔は鳥居前の道路にあり、交通整理の役をしていましたが、この石を動かしたところ災いがおきたことからこの名前がついたといわれています。今は交通安全祈願の石とされています。



MAP 11

笠置石 (かさおきいし)

川原ヶ谷の宝鏡院の境内にあります。三嶋大社の神様が仁から三島にうつられる時に笠を置いて休まれたという言い伝えがあります。



MAP 12



それぞれの道にはこのようなプレートがあります。(金谷小路と細小路にはありません。) 実際に歩いて探してみませんか?

MAP 5



上の小路 (うえのこうじ)

桜川から心経寺の前を通り、東にゆるやかにカーブする道。下の小路の 1 本北側にあり、現在は東から西への一方通行となっています。

MAP 6



竹林寺小路 (ちくりんじこうじ)

市役所前から大通りへ出るまでの道。昔、竹林寺があったことからこの名前が付いたといわれています。平成 10 年に道路が広がり、当時の面影は残っていません。

MAP 7



桜小路 (さくらこうじ)

御殿川が流れる赤橋から東に向かう道。現在は東から西への一方通行になっています。桜小路のかわりに間屋小路を八小路に数える説もあります。

MAP 8



間屋小路 (といやこうじ)

市役所中央町別館横から赤橋の通りまで。江戸時代には中央町別館の所に間屋場(右ページ参照)があったことから、この名前が付いています。

MAP 9



菅小路 (すげこうじ)

間眠神社の周辺では、昔は菅が生えていて、菅笠がたくさん作られていたことからこの名前がついたといわれています。しかし、どの道なのかは、はっきりと分かっていません。

蛙石 (かえるいし)

北田町の楊原神社境内にあります。蛙が座っているように見えることからこの名前がついたといわれています。



MAP 13

市子石 (いちこいし)

阿闍梨小路の途中にあります。市子とは霊を呼び寄せる巫女のこと、この石を使って占っていたといわれています。



MAP 14

耳石 (みみいし)

※広域マップA

幸原町の耳石神社の境内にあります。耳の形の穴があいていて、この石にお祈りすると耳の病気が治ると伝えられています。



MAP 15

蛇石 (へびいし)

※広域マップD

加屋町の秋葉神社入口にあったといわれています。蛇の形に似ていることからこの名前がついたようですが、現在どこにあるかわかりません。

MAP 16

三島の昔話(みしまのむかしばなし)

三島に古くから伝わる昔話。内容はさまざまですが、どれもみなさんの心に残るおはなしばかりです。これから子ども、またその子どもへと語り継いでいられるでしょう。

孝行犬(こうこういぬ)

MAP 17

芝本町に円明寺というお寺があります。江戸時代の終わりの頃、本堂の床下に母犬と5匹の子犬が住んでいました。ある冬の寒い日、子犬のフジが病気でなくなり、あまりの悲しみに母犬は病気になってしまいました。子犬たちは、母犬のために町から食べ物を持ってきて、体を温めたりしてやさしく寄り添い、必死に看病しました。その尊い姿に町の人々は心を打たれました。懸命に看病しましたが、母犬は亡くなり、子犬たちも後を追うように次々と亡くなってしまいます。和尚さんは、犬たちの姿に深く感動して、お墓をたてて供養したと伝えられています。



手無地蔵(てなしじぞう)

※広域マップC

MAP 18

旧下田街道沿いの三島市中に手無地蔵堂という小さなお堂があります。昔、この地にあった神社が焼けて、お堂が建てられました。お堂のそばには石地蔵があり、この地蔵は夜になるとよく化けては道行く人を驚かせていました。ある日、いつものように化けて、若侍の髪を引いたら、逆にその若侍に左手を切り離されてしまいました。それ以来、この地蔵は手無地蔵といわれるようになり、今でもこの地域は手無と呼ばれています。手無地蔵にはさまざまな言い伝えがあり、この若侍が源頼朝であるという説もあります。



三島宿(みしましゆく)

江戸時代、江戸と京都を結ぶ東海道の整備され、その間には53の宿場がありました。三島は江戸から11番目で、とても賑わった宿場町のひとつです。三島宿の足跡をたどってみませんか。

世古本陣(せこほんじん)

MAP 21

本陣とは、大名や公家、役人など身分の高い人が宿泊する施設のことです。世古家の「宮」だ世古本陣は、一の本陣といわれ、三島宿では一番規模の大きいものでした。本町交差点から西に少し進んだ北側に小さな石碑があります。当時の門は長圓寺に移され、現在山門となっています。



MAP 22

長圓寺山門

樋口本陣(ひぐちほんじん)

MAP 23

樋口家が「宮」だ樋口本陣は二の本陣といわれました。本町交差点から西に少し進んだ南側(世古本陣の向かい側)に小さな石碑があります。当時の門は円明寺に移され、現在山門となっています。



円明寺山門

千貫樋(せんがんひ)

※広域マップD

MAP 24

小浜池の水を、田んぼの水不足に困っていた隣の駿河国に引くために造られた農業用の水路。今から450年以上前の1555年に造られたという説が広く知られています。江戸時代の街道図には三嶋大社とともに描かれていて、当時の旅人にとっても名所だったようです。それまでは木製でしたが、1923(大正12)年の関東大震災で崩壊し、コンクリート製に改修されました。



言成地蔵(いなりじぞう)

MAP 19

今から300年以上前の江戸時代、1687年の春の日のこと。今の東本町あたりに6歳になる小菊という女の子が住んでいました。小菊が道ばたで遊んでいると、町の向こうから明石(今の兵庫県)の殿様の行列がやってきました。小菊はお母さんに呼ばれたと思い、うっかり行列を横切ってしまう、取り押さえられてしまいました。行列を横切ると打ち首という恐ろしい時代です。町の人はお寺に行き、上人さんに助けを求めました。また、小菊も手を合わせて「お殿様の言いなりになりますから助けてください」と何度も頼みましたが、小菊は手首に刺さってしまいました。町の人はお菊のためにお地蔵さんを作りました。小菊の最後の言葉から言成地蔵と呼ばれています。



鼻取り地蔵(はなとりじぞう)

MAP 20

その昔、白の出町にある光安寺近くの村に伝わる話です。田植えでどの家もとても忙しく、猫の手も借りたくてでした。特に牛を使って耕すのに、その牛の手綱を引く鼻取りがないため、仕事がかたどらず、村人たちは大変困っていました。そんなとき、一人の小僧がひょっこり現れ、上手な手つきで鼻取りをしてくれたのです。おかげで田植えも順調に進み、みんな大助かりでした。来る日も来る日も、小僧は朝早くやってきて、仕事を手伝っては誰にも知られずに消えてしまいます。不思議に思った村人が後をつけると、小僧は光安寺の山門をくぐり、本堂の中に入っていったのです。本堂の畳の上には泥のついた足跡がお地蔵さまの下まで続いていました。やさしいお地蔵さまが一生懸命働く村人たちを助けてくれたのでしょうか。それから光安寺のお地蔵さまは鼻取り地蔵と呼ばれるようになりました。

鼻取り…牛を使って田んぼをたがやすときに、牛の鼻に付けたつなを引く人。昔は鼻取り役は子どもたちの仕事でした。



時の鐘(ときのかね)

MAP 25



三石神社の境内にある時の鐘は、江戸時代の1750年ごろに宿場の有志によって造られ、三島の宿場に時を告げ、旅人や宿場の人に親しまれてきました。第2次世界大戦の時に、供出(戦争で金属が不足しているため、軍に差し出すこと)され、現在の鐘は戦後、市民の有志によって造られたものです。

問屋場(といやば)

MAP 26

人足(荷物の運搬や力仕事をする人)や馬を用意して幕府の役人などの荷物を運ぶ手配をするところ。宿場があった時代には、現在の三島市役所中央町別館のところに問屋場がありました。三島宿を通行する人や馬の数はとても多く、夜明け前から夜遅くまで賑わいました。



三島暦(みしまごよみ)

MAP 27



三島暦師の館

月曜休
9:30~16:30

かな文字で刷られた暦として日本で一番古いといわれています。古くから有名な三島暦は、東海道の旅人のみやげものとして大変人気がありました。三嶋大社の近くには、代々三島暦を発行してきた河合家の建物を改修して開館した「三島暦師の館」があり、暦の展示のほか、印刷体験やガイドの案内もあります。

車やバスでめぐる

山中城跡 (やまなかじょうあと)

▲ 史跡山中城跡はこんなところ！

山中城は箱根西麓の地形を生かして築かれた山城です。今から450年以上前の戦国時代に、小田原を中心にして関東地方を領土としていた北条氏によってつくられました。しかし、天下統一を目指す豊臣秀吉率いる7万の大軍に攻められ、わずか4千の北条軍は必死に戦ったものの、あえなく攻め落とされたとされています。その後、400年近く埋もれていた山中城の発掘調査を行い、堀や土塁などの遺構(昔の人が残した痕跡)が残されていることが分かりました。三島市では、当時の状態を再現するために整備を行い、昭和56年から史跡公園として開放しています。

MAP



自動車

国道1号を箱根方面に、市内中心部から約25分。

バス

三島駅南口から約30分。東海バスオレンジシャトル(元箱根港行)「山中城跡」下車

▲ やまじろ 山城ってなに？

山に築かれたお城で、山の険しい地形を利用してつくられています。山城のポイントは、ほぼ「土」でつくられていることです。土を掘ったり盛りたりして、敵から攻められにくいように工夫して造られています。戦国時代末期まではこの山城が主につくられ、それ以降の江戸時代にかけて石づくりのお城がつくられるようになります。ただし、もともと土づくりの山城でも、途中から石垣を積み改修されたお城もあります。

▲ お城の中の各場所の名前

曲輪(くるわ)

堀や土塁で囲ってできた城の中の平らな場所。本丸、二ノ丸、西ノ丸などがあります。



櫓(やぐら)

遠くを見渡すためや、敵を攻撃したり、敵の攻撃を防ぐための建物。本丸に建てられる櫓のことを天守といいます。

本丸(ほんまる)

城の中で中心となる曲輪。本丸を中心に外側に向かって二ノ丸、三ノ丸となります。

出丸(でまる)

城から少し離れたところにつくった独立した曲輪。山中城では、豊臣秀吉の小田原攻めに備えて、岱崎出丸が急遽つくられました。

写真スポット



障子堀越しの富士山は見ごたえ充分！



ほんまるがわ本丸側
各曲輪をつなぐ木橋。いざとなったら壊して敵の攻撃を防ぎます。



▲ お城の中の色々なしかけ！

土塁(どるい)

敵の進入を防ぐために、曲輪の周りに土を盛り、土手のような急な斜面にしたもの。

堀(ほり)

敵の進入を防ぐために、土を削って溝にしたもの。

ココがみどころ！



障子堀(しょうじぼり)

北条氏の城にみられる特徴的な堀で、堀の中に土手状の敵を掘り残してつくります。衝立障子を並べたようなつくりから障子堀と呼ばれています。現在は保護のために芝を張ってありますが、当時はすべりやすい土のまま、今よりも深かったため、一度落ちたらアリ地獄！二度とあがることはできません。

ココもチェック！



石畳を歩いて江戸時代の旅人気分を味わおう！

箱根旧街道(はこねきゅうかいどう)

江戸時代はじめに徳川幕府が整備した東海道の一部です。三島宿から箱根峠を上り、小田原宿まで下る八里(約32km)の坂道で、東海道で一番の難所といわれました。この坂道はとても滑りやすかったため、石が敷き詰められました。これが、箱根旧街道石畳です。三島市は、笹原～山中地区の約2kmを整備しました。

山中城跡をめくろう！

見学時間

本丸側をぐるっと1周 1時間～1時間半
本丸側～岱崎出丸をぐるっと1周 1時間半～2時間

坂道はすべりやすいから気をつけて歩こう！
堀の中は危ないから入らないでね。



向山古墳群 (むかいやまこふんぐん)

むかいやまこふんぐん
向山古墳群はこんなところ！

こふん 古墳ってなに？

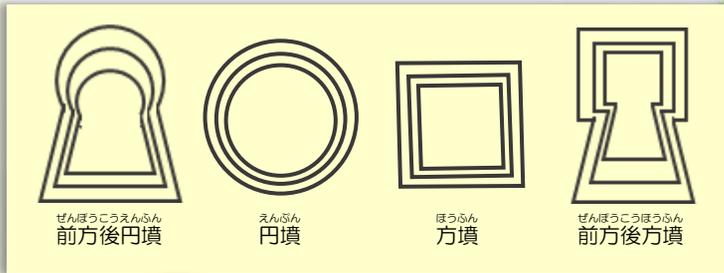
3世紀の初めごろから、各地の王や豪族を葬るためにつくられた古墳。当時の王や豪族は、大きな古墳をつくることによって、力の大きさを示したと考えられます。伊豆地方では4~8世紀（今から約1700~1300年前）にかけて約400年間つくられました。三島市内でもいくつかの古墳が見つかっていて、その中でも最も古く規模が大きいのが向山古墳群で、田方平野北部を支配していた「くに」の王（首長）と考えられています。

こふん 古墳ってどんな種類があるの？

葬られた人の地位や時期、地方などによって様々な形や大きさの古墳がつけられました。最も高いランクに位置づけられていたのが前方後円墳で大王やその一族、地方の有力な首長が埋葬されています。



向山小学校の北東にあり、全部で16基から成る古墳群。昭和50年、向山小学校の建設工事のときに偶然2基発見されました。その後の調査で、新たに13基の古墳がみつかり、平成16年には少し離れた向山小学校の北側に大型の前方後円墳が1基発見されています。「伊豆地方でとても重要な古墳である」という理由から、静岡県指定文化財になっています。平成22年から公園の整備を行い、平成25年に開園し、一般公開しています。



ココがポイント！
向山古墳群は 円墳 14基、前方後円墳 2基

ココがポイント！
棺を土の中に埋めた跡が見つかり、穴の跡を石で表わしています

写真スポット
14号墳の上から富士山と市街地を見渡せます

写真スポット
途中の小径から絶景が望めます

バス
三島駅南口から約20分。東海バスオレンジシャトル(夏梅木行)「学校前」下車、徒歩約10分

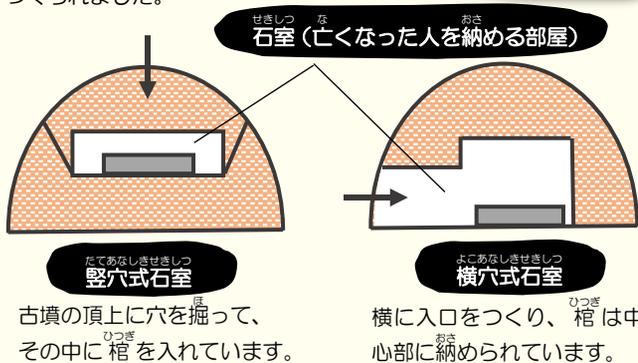
電車
伊豆箱根鉄道「三島二日町」「大場」からそれぞれ徒歩約30分

MAP

こふん 古墳の中はどうなっているの？

土を盛って作られた墳丘の中には遺体が納められています。古墳時代の初めから中ごろまでは竪穴式、その後は横穴式のものが見つられました。

向山古墳群は竪穴式のみ！
石室があるのは16号墳だけで、それ以外は棺の上に直接土をかぶせる木棺直葬となっています。



しゅつど 出土した副葬品

副葬品とは亡くなった人と一緒に納めるものをいいます。向山古墳からも剣のほか、槍、大刀、鏃、鏃などの武器や土師器（赤褐色の土器）が発見されています。



郷土資料館(楽寿園内)で展示しています！

親子でめぐる 三島の文化財

〒411-0035 静岡県三島市大宮町1-8-38
発行年月日 平成31年3月31日
TEL: 055-983-2672
FAX: 055-983-0870
編集・発行 三島市教育委員会郷土文化財室
E-mail: bunkazai@city.mishima.shizuoka.jp